

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-39C	14-096	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Different levels in alcohol and tobacco consumption in head and neck cancer patients from 1957 to 2013. 頭頸部腫瘍に対して飲酒と喫煙が与える影響は異なる：1957年から2013年までの分析		
執筆者		
Zhang Y, Wang R, Miao L, Zhu L, Jiang H, Yuan H.		
掲載誌		
PLoS One. 2015;10(4):e0124045. doi: 10.1371/journal.pone.0124045.		
キーワード		PMID
飲酒、喫煙、頭頸部腫瘍、メタ分析		25875934
要 旨		
<p>目的： 過去45年間での頭頸部腫瘍患者に対する飲酒および喫煙の影響について量的検討を行うことを目的とした。</p> <p>方法： 2014年3月までに公開された飲酒・喫煙と頭頸部腫瘍との関連について検討した文献をメタ分析した。</p> <p>結果： 28研究から13,830人の頭頸部腫瘍患者を分析対象とした。頭頸部腫瘍に対するオッズ比(95%信頼区間)は、非飲酒者と比較して、軽度飲酒者(アルコール摂取量12.5g/日以下)で1.29(1.06-1.57)、中等度飲酒者(12.6-49.9g/日)で2.67(2.05-3.48)、高度飲酒者(50g/日以上)で6.63(5.02-8.74)であった。頭頸部腫瘍に対するオッズ比(95%信頼区間)は、非喫煙者と比較して、軽度喫煙者(19本/日以下)で2.33(1.84-2.95)、中等度喫煙者(20-39本/日)で4.97(3.67-6.71)、高度喫煙者(40本/日以上)で6.77(4.81-9.53)であった。</p> <p>結論： 過去45年間における文献のメタ分析から、飲酒量および喫煙量の増加は頭頸部腫瘍リスクの増加と関連していた。喫煙習慣は、飲酒習慣と比較して、頭頸部腫瘍との関連が強かった。頭頸部腫瘍予防のためには飲酒および喫煙の制限が重要である。</p>		